



五日市

まぢづくり通信

令和3年 6月号

【編集発行】
五日市活性化戦略委員会
まちづくり通信チーム
市民有志のみなさま
五日市・増戸・戸倉・
小宮地区の
40自治会で配布中!

五日市でオープンしました!

〜おかえりなさい! 西の風新聞社!〜

「西の風新聞社」館谷に移転

秋川市(現あきる野市)二宮で創業した西の風新聞社。2021年春、事務所が青梅から五日市に移転。新社長の伊藤さんにお話を伺ってきました。――社長就任おめでとございます! まずは五日市に事務所を移転する



お仕事中の伊藤社長



昔の紙面を見せていただきました

昭和63年に創立され、五日市町と秋川市の合併機運の醸成を目標にした新聞。名前も当時、秋流新聞、西の風」と言っていました。――そうだったんですね。心機一転した西の風はどんな新聞になって行くのか、抱負をお聞かせください! 住んでいる人の面白さをしっかり取材して伝えていきたいです。例えばお



きつかけをお聞かせいただけますか? 有難うございます。自分の中では「あきる野市の新聞」という思いがあったので、社長就任を機にホームのあきる野に帰ってきました。気軽に訪ねてもらえるよう、通り沿いの二階に事務所を構えました。良い意見も悪い意見も直接耳に入ってくるような場所にしたくて。移転して間もないですが、街の方に早速「おかえり」「ありがとう」と立ち寄ってもらえるのは嬉しいです。西の風は地域の方の出資により

店の取材でも店主さんに焦点をあてて人間を通して店の魅力を伝える切り口。共感や刺激が読んだ人の活力になる紙面を目指していきたいです◎

株式会社 西の風新聞社

【住所】あきる野市館谷199

【電話】042-588-4170

事務所で一部220円で購入できます!
定期購読も募集中!お申込みはこちら→



超レアな五日市の苗字、キシノ姓のルーツを求めて



にお住まいのため、館谷在住の末住野善(69歳)さんにお話を伺いました。

五日市にお見えになる観光客の方から「来住野」という苗字が大変珍しくて読むことが難しいとお話を聞くことがあります。五日市にお住まいの方にはごく普通の苗字に見えるかもしれませんが、日本姓氏語源辞典によると「来住野」姓は、全国で順位が14,141位という超レアな苗字であることが分かります。同辞典によると「来住野」姓は日本全国では約400人、その中で東京都には約300人、あきる野市全体では約140人(五日市地区90人)が確認されています。特に、三文字のキシノ姓(来住野・木住野・末住野など)があきる野市に集中していることから姓氏の発祥の地とも言えるようです。館谷には来住野家本家の墓所があり、戦国時代に活躍した来住野十郎兵衛の墓標には館谷開祖だと記されています。現在、ご本家は都内

東京の森クリーンイベントを実施しました!

4月下旬、一般社団法人「森と暮らす東京」の羅久井さんや五高生(五日市高校生)たちとともに、東京の森を綺麗にするイベントを行いました。

参加してくれた人たちは、明るく元気な面々ばかりで、楽しく清掃活動をしていました。ボランティア活動とは、楽しんで行うことが大切です。

自然の美しさを取り戻すために

きっかけは、羅久井さんの言ったことから始まりました。「最近、森や川では、多くのごみがポイ捨てされ、美しいはずの自然を失いかけている。だからこそ、そんな自然の美しさを僕たちの力で取り戻していきたい。」

最初は、私たちが通う五日市高校の周辺から清掃をしました。商店街や川のほうの道には、たばこやお菓子の袋が落ちていて、普段私たちが歩いているところには、これほどまでにごみが落ちていることを改めて気づかされました。

この活動を多くの人々に広め、やがて東京の森全体を綺麗にする。これがイベントを通して、私たちが目指す大きな目標なのです。

さらに、私たちの部活では、ミュージシャンとともに世界に向けた歌を作るプロジェクトも行っています。イベントで体験したことをもとに、自然の大切さなどを言葉や歌詞にして、五日市を世界へ発信していきたいと考えています。



サビ

一つの環境問題の解決に繋がるサビ



ムサ

☆ムサとサビとは?

都立五日市高校のオフィシャルキャラクター。

詳しくは、公式 Instagram にて。⇒



COHO.6338



五日市高校 ESS 国際交流部とは…五日市を訪問する外国人向けの観光案内や異文化交流、ボランティア活動等、地域と深く関わりながら、高校生ができる社会貢献活動を積極的に行っている部活です。私たちが何か共に活動してくださる地域の皆様、是非、お声かけください!

お店探訪♪ 「小春日和」のように、ほかほかして居心地のいいお蕎麦屋さん

戸倉「小春日和」さんのご紹介

元戸倉小学校に向かう坂道の途中にある「小春日和」。2018年9月にオープンしたこの可愛い名前のお店は、とても居心地のいいお蕎麦屋さんである。

お店を運営するのは、春原伸行さんと、高校の同級生の野口寛さん。蕎麦打ちと調理担当の春原さんは、たまたま入ったお店の蕎麦の味に鳥肌が立ち、それ以来蕎麦にのめり込んだと言います。「研究熱心で努力家」と野口さんが評するように、全国百軒以上の蕎麦屋を巡って研究を重ね、お客様の舌をうならせています。ホール担当の野口さんは、話上手でもてなし上手。「採算度外視のサービ

スをすることもしばしば。」と春原さんが苦笑いしながら語ってくれました。対照的なお二人がとてもいいハーモニーを醸^{かも}しだし、お店に彩^{いろど}りを添えています。

実は、お二人ともあきる野とは縁もゆかりもない。でも、「周りの方が色々協力してくれた。皆さん、穏やかで本当にいい人ばかり。」とすっかりこの地が気に入り、地元^{ちよ}に溶け込んでいます。「近所の人たちが気軽に集まって、お茶したりのんびりできる場所にしたい!」小春日和は、そんなお二人の想いのもと、単にお蕎麦を提供するだけではなく、色々なことをやってくれそうな、楽しみなお店である。



戸倉小学校を建てるために移築した古民家。緑の中に溶け込んでいます。



高水健さんからメッセージ

二人三脚で活動して5年が経ちました。お山の指導では厳しいですが、作業が終われば満面の笑みで話をしてくれる心優しい師匠です。何よりも、いつまでもお元気でいてほしい! まだまだ、お山の管理に至らない私達ですが、頑張っていきます!!

ちゅういっちゃん(中央)と高水健さん(向かって左)と南嶋祐樹さん(右)

選んだ理由は、比較的長く花を咲かせ、挿し木で増やし易いから。40歳の時、庭にある2株の紫陽花から自分の山に挿し木をし始めた。一人でコツコツと、時間の積み重ねの偉業を「祭日の産物だから」と南澤さんは笑う。現在では、1万株を超える様々な種類と色とりどりの紫陽花が咲

き乱れる山になった。南澤さんは、1930年、林業、農業、養蚕を営む家に生まれた。戦争色の子供時代であった。国民学校高等科を卒業する前に少年農兵隊(※注)に入隊。戦後は家業の材木商に従事。1957年南澤材木有限会社を設立。63歳の時、材木工場を閉鎖した。晩年は弟さん達も山の草刈りを手伝ってくれ、5年前に他界された奥様は、山で泥だらけになった服を毎日洗濯し支えてくれた。米寿を前に、紫陽花の

「ちゅういっちゃん」と南澤忠一さん 深沢の花咲か爺さん 半世紀にわたり花を植え続けてきた人



↑5月のお誕生日で91歳になられた南澤忠一さん

↓ご来山頂上の際のお願いはホームページでご確認ください

あじさい山
ホームページ
ajisai-yama.com



南沢あじさい山

【住所】あきる野市深沢368
【電話】090-5540-9100
【開山期間】6月10日～7月20日(予定)
【入山時間】8:00～17:00
【入山料】中学生以上 500円
小学生以下 300円

◆入山料は紫陽花の維持・管理のための費用に充てています。◆新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、開山が変更になる場合がございます。

(※注釈)少年農兵隊とは別名「甲種食糧増産隊」。第二次世界大戦中、開墾、開田をはじめ、土木作業などの労働に従事。

手入れを続けられるか不安を感じ始めた頃(株)domo社長の高水健さんと出会った。あじさい山の維持、管理の強力なサポーターになった。若者達と一緒にオーリスーツン楽しめる花山を目指してゆく。

記事掲載をご希望の方はこちらまで
ご意見、ご感想もお待ちしています。
E-mail/machitsuku.itsuka@gmail.com→



SNSでも情報発信中!

最新情報はFacebookで、過去の記事はnoteで→



編集長・ポン太のしとりごと

雨の深沢アジサイ山は最高にきれいだよ、雨上がりの青空と同じ色。ミドリ色とアオ色はとっても仲良し、ムラサキ色も仲間に入っておしゃべり楽しそうだね。小鳥さんとボクには聞こえるよ「いろいろ

の歌声」ボクは音痴だから静かに聴いているんだ。あきる野市は自然がいっぱいだから水も空気も景色もみんな美味しい。「ごちそうさま」が言い切れないね、五日市の自然でお腹いっぱい!(ポ)

五日市まちづくり通信

五日市は花いっぱい!



和の内装で、落ち着いた空間。



大粒なめこそば(天ぶら付)。飛騨高山から取り寄せた大粒のなめこがふんだんに入っています。